

大阪府に大きな被害をもたらした過去の気象事例 「昭和47年（1972年）7月豪雨（7月3日～13日）」

大阪で300ミリを超える大雨。床上、床下浸水などの被害が多数発生。

【概況】

7月3日から6日にかけては、黄海から日本海北部に進んだ前線を伴った低気圧に向かって暖湿気流が流れ込んだため、九州と四国で雷を伴った局地的な大雨が降り、この期間の降水量が500ミリから800ミリに達した所があった。近畿地方でも300ミリから400ミリを超える大雨となり、大阪では331.0ミリを観測した。

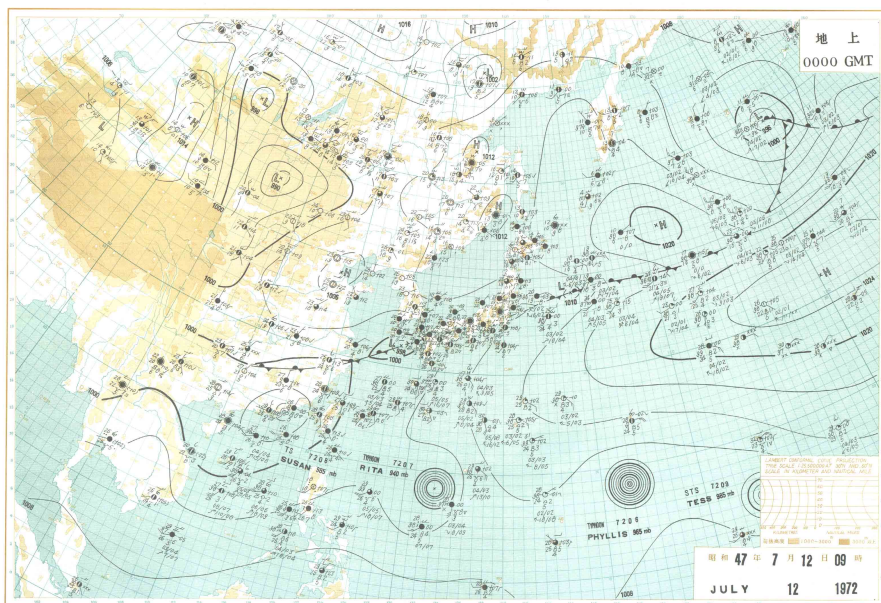
7月9日から13日にかけては梅雨前線が南下し、本州南岸から四国、九州北部付近に停滞した。また、日本の南海上には台風第6号、7号、8号があり、これらの影響で梅雨前線の活動は活発となった。

気象庁は、7月3日から13日にかけての大雨を「昭和47年7月豪雨」と命名した。

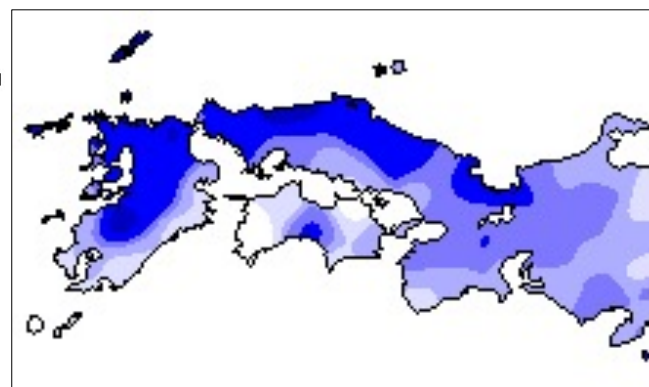
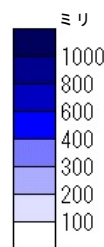
この大雨の影響で、大阪府内では以下の被害が発生した。

人的被害：死者0名 住家被害：家屋全壊23戸、家屋半壊42戸、床上浸水6,186棟、床下浸水40,346棟

（被害状況：大阪府ホームページ「大阪府を襲った主な災害」より）



地上天気図 7月12日09時



期間降水量（7月3日～15日）

期間降水量（7月3日～15日）
（近畿地方）

地点名	期間降水量
大阪	331.0ミリ
神戸	327.5ミリ
姫路	269.5ミリ
豊岡	386.5ミリ
京都	386.5ミリ
舞鶴	465.5ミリ
彦根	345.5ミリ
奈良	333.5ミリ
和歌山	314.5ミリ